

労使関係から障害者雇用 を考える

2022年11月18日 連合総研シンポジウム

阪南大学
金子良事

1 もっとも重要なこと

- 障害者雇用であっても、通常の労働運動の延長線上にある。労働運動でGood Practiceを実践できていれば、障害者雇用でも同じようにできる。

2 構造的に捉える

トレードオフとバランス

- 現場での情報を全部吸い上げる必要はない。

VS

- みんなに向いている方向が分かるように旗振りをする。

2 構造的に捉える

- 現場での経験／知識を集約することの意味



- 次の現場での実践をよりよいものにするため
 - 他者の経験を学ぶこと
 - 自分の経験を相対的に理解しておくこと

賃金のように組織的に集約して戦略を立てる必要はなく、
あくまで**現場の相談支援スキルを上げていくため。**

2 構造的に捉える

みんなが向いていく方向を示すための旗振り

- ノーマライゼーション
- ダイバーシティ

もし、工程的に目標を立てるなら詳細な設計が必要。ただしリニアな道程より、螺旋型道程が重要。一つの方角に向かっていくだけでなく、行きつ戻りつの確認が大切。